

キラリ★話題の「ひと」



ゆきこ
佐野 由希子 さん
(富士町)

○プロフィール
唐澤山神社ねぎ禰宜。
元民放アナウンサーとして活躍した経験を生かし、神社のイベントなどでは自ら司会を務める。

ご縁を結ぶ

「大学卒業後『神社』とは違う所にいましたが、自然と神様にもどされました」と笑顔でお話ししてくださったのは唐澤山神社禰宜の佐野由希子さんです。

由希子さんは、古くからの伝統を守りながら、新しいことを取り入れたイベントの開催が、唐沢山に足を運ぶきっかけになればと、史跡唐沢山城跡の季節の移り変わる様子をSNSで発信し、また、昨年夏には佐野ブランドの天明鋳物とコラボレーションした『風鈴参道』を開催しました。風鈴の音色で夏の史跡唐沢山城跡と神社を楽しんでもらおうと企画され、期間中には二胡奏者による納涼ライブも開催されました。

一昨年開催された「山城サミット」後、史跡唐沢山城跡保存会によるガイドツアーが行われようになり、よりたくさんの方々が神社を訪れるようになったとのこと。

これからも、佐野市のブランドとコラボレーションさせたイベントを企画・開催し、そのイベントによって、たくさんの方々と佐野ブランドと神社とのご縁を結びたいとのこと。

たくさんの方々のアイデアが生まれ、それを実行に移し、たくさんのご縁が生まれる行動力は、由希子さんの魅力の一つです。

由希子さんの活動の様子は3月2日に開催される佐野市生涯学習フォーラムで発表されます。ぜひ足をお運びください。

(市民記者 中里聖子)



天明鋳物とコラボレーションした「風鈴参道」

市長からの

メッセージ



暦の上では間もなく立春を迎えます。まだまだ寒い日が続いておりますが、皆さんいかがお過ごしですか。
平成最後のお正月を迎え、本年も元日から恒例の観光物産会館初売り式に臨みました。好天に恵まれ、穏やかな日差しのおかげで、佐野厄よけ大師の参拝者もこれまで以上に多かったですように感じられました。

さて、先月6日には市役所前にて消防出初式を行いました。沿道には多くの市民が集まり、市内31分団の消防団員らの堂々たる行進や鳶工業組合によるはしご乗りなどが披露されました。市民の安心安全を守るため、日頃より活動されている団員そしてご家族の皆様にご感謝を申しあげます。
翌7日には文化会館において新年祝賀会・表彰式を開催しました。市内各界代表者など約千人の方々を前に、本年の抱負をお話しするとともに、新しい年の門出を祝うことができました。

また13日には、市内3カ所で成人式を開催し、約1200人の方が成人式を迎えられました。新成人の方々には新しい年号のもと、新しい時代、輝く未来を築いてもらいたいと願っています。

ウインタースポーツが盛んな季節です。ここ数年、駅伝人気が高まるなか、今月3日には、本市出身で日本記録を樹立しながらも太平洋戦争で戦死された偉大な長距離ランナー・大澤龍雄氏の追悼行事として長い歴史を持つ、第69回大澤駅伝競走大会が行われます。今年も各地から約180チームが参加し健脚を競い合います。櫂たすきをつなぐ「いだてん」たちの走り

に熱い応援をお願いします。
空気が乾燥しています。インフルエンザも流行していますので、市民の皆さんには十分な体調管理をお願いします。

岡部正英





佐野市からプロ野球界へ

10月に行われたプロ野球ドラフト会議において、本市出身の弓削隼人投手が楽天4位指名、青藍泰斗高校の益子京右捕手がDeNA5位指名を受け、このたび両名が市長に報告に来庁されました。

弓削隼人投手は田沼東中出身で、佐野日大高校、日本大学を経てSUBARUで活躍されていました。193センチの長身を活かした、角度のあるボールと多彩な変化球を操ります。弓削投手は「佐野といういい環境で野球をさせてもらって感謝している。地元で応援してくださる方がたくさんいることを思い出し、プレーしていきたい」と話されました。

また、益子京右捕手は宇都宮市出身で、高校1年生の秋から正捕手としてチームを引っ張り、高校通算28本塁打など、攻守ともに非常に活躍されました。益子捕手は「高校の恩師である宇賀神監督の教えをプロでも活かし、一日でも早く一軍での活躍を目指します。これからも応援お願いします」と話されました。

お二人の今後のご活躍を期待いたします。



ゆげはやと
弓削隼人投手



ましごきょうすけ
益子京右捕手

消防出初式

1月6日(日)、新春恒例の消防出初式が行われ、市役所南側の県道桐生・岩舟線で消防団員580人、車両50台による壮大な街頭行進が行われました。出初式は、市民の安全を守る消防団員の士気の高揚と、充実した装備をご覧いただくことを目的として、毎年開催しているものです。

当日は女性防火クラブ、幼年消防クラブ、少年少女消防クラブが行進に華を添え、子どもたちは大きな声で「火の用心!」と呼びかけました。

また、青藍泰斗高等学校吹奏楽部による行進曲演奏や、佐野鷺工業組合による伝統の梯子乗りが披露され、訪れた皆さんを魅了していました。

皆さんも日頃より防災意識を高め、安心安全な佐野市を目指しましょう。



佐野市
ばんてい

「力いっぱい」を、
ウデッコキ・ウデッキシという

「力いっぱい抱きしめる」、「精一杯頑張る」とは、よく耳にすることばです。この「力いっぱい」とか「精一杯」を、方言ではウデッコキといえます。このウデッコキは、昭和のころまで年齢や男女に関係なく多くの人が日常的に使っていました。ところが、共通語化がすすむにつれて、若い人たちはあまりでなく、中高年者でもあまり使わなくなりました。

「20歳代は、若さと力にまかせてウデッコキはたらいいたもんだよね。ソダのに病気にもナンナかつたし、なんぼくたびれたって、一晩寝て起きリヤ、すっかり回復したかね。ワケッテコター(若いということ)はアリガテもんだよね」
ウデッコキは、共通語の「うでこき(腕扱)」が変化したもので、腕をふるうこと、技がすぐれているという意味です。この意味が変化して、力の限りをつくすこと、思いっきりことをすることという意味になりました。この「うでこき」と同じ意味の語に、「うできり」があります。漢字で「腕切」と書き、腕の力のある限りとか、力いっぱいという意味です。この「うできり」が変化してウデッキリとなり、さらにウデッキシとなって、今も時折使われることがあります。

「^{たづな}手綱をウデッキ引っぱつても、鳥はぜんぜん歩こうとしネンだよ。ホソソボ(細い棒)でウデッコキ尻をブツパダイタンだけど動くケツプリ(ようす)もしネンさ。さつきあのオーカン(道路)のノボリッパ(坂道)でへばつチャツタンダンベー」

(市民記者 森下喜二)

今回の表紙 「佐野市成人式」平成31年1月13日撮影 佐野・田沼・葛生

の3つの会場で成人式が開催され、約1,000人の新成人が出席し、成人の祝福をしました。成人を迎えた皆さん、おめでとうございます。

